Pichari ～ピチャリ～
七飯町歴史館だより
第178号

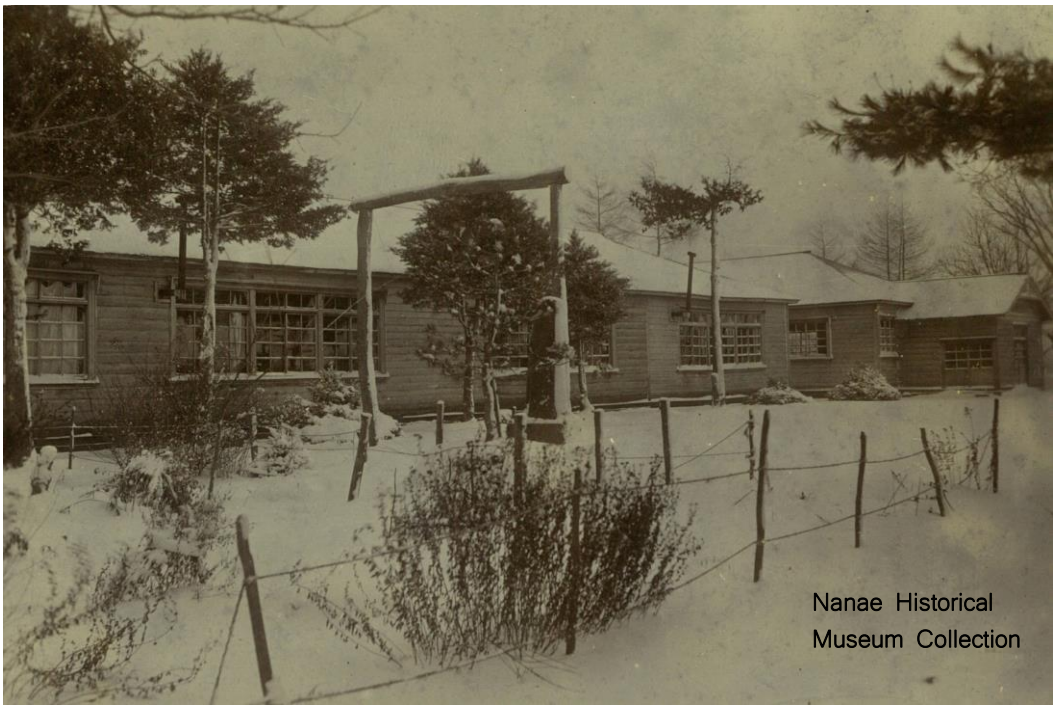
ななえ古写真物語
VOL.178

嶺下学校

峠下尋常小学校

大正～昭和初期か

峠下地区



「みのる稲田は夕映えて　豊けき里の峠下
もゆる希望の心持て　共に学ばんわが友よ」これは、峠下小学校校歌の三番の歌詞である。峠下地区はいまでも水田が広がっているので、夕映えの稲田は健在といえよう。

江戸時代、交通の要所であったため宿場町としても知られた峠下村は、もともと市ノ渡村（現北斗市、旧大野町）の支村として扱われていた。しかし文政５年（1822年）に独立村となり、以降、安政年間には七重村を超える戸数と牛馬の飼育数をほこるようになったという。また田畑が広がると、生業も多様化し、白炭の炭窯がいくつも設けられ、箱館奉行所に納品するにいたる。これらの炭は「箱館通宝」と呼ばれる新銭鋳造に使われたそうだ。

明治５年に札幌本道（現国道５号）の開削時には、五稜郭にあった奉行所を解体したときの建材を利用して峠下ホテルと称される宿泊所もたてられた。現在は移転したがその場所にあったのが、峠下小学校であった。

現在国道５号の峠下地区には、道の駅が設置され、町内外の多くの方が利用するなど、変わらず旅路の拠点として利用されているのを見ると、時代は変われども、何か通ずるものを感じてしまう。

そんな峠下地区に、学校が設けられたのは、明治13年のこと。村民の協議によって函館伝習所付属の長屋を拝借し、学校を設置することを出願、これが許可されたため、生徒数３０名の「嶺下学校」が開校したが、教員が決まっていなかったため、開校後少しの間休業を余儀なくされたという。

翌明治14年には、敷地内にあった宿泊所「峠下ホテル」が行在所にあてられ、北海道行幸中の明治天皇が昼食をおとりになられた。その事績を記念して大正２年に「明治天皇御駐蹕之地碑」が建立されている。写真中央に写っている石碑がその記念碑と考えられ、現在石碑は小学校跡地（現峠下交番）に残されている。

嶺下小学校は、明治20年に峠下簡易学校と改称、明治28年には峠下尋常小学校となり、その後峠下国民学校を経て、昭和22年、峠下中学校を併置する峠下小学校となった。木造校舎が写っている上の写真には峠下尋常小学校の手書き文字が記されていることや、石碑が写っていることから撮影年代は大正２年以降、昭和16年未満であろうと推測している。

今も昔も交通の要所である峠下地区の歴史は、小学校の存在が中心にあったように思える。調べるたびに新たな発見のある地域だ。

日進月報 <2022. 9>

7日　夜の博物館第4夜を行いました

この夜のお話しの主役は、村上島之丞という人物。江戸期の終りに精緻な駒ヶ岳を描いた『東蝦夷地屏風』の作者村上島之丞の仕事に迫りました。講師は石川県立大学の雁沢好博氏。時代背景を交えたお話しは、受講者をあっという間に魅了します。近代的な技法で、蝦夷地を最初に描き、観察眼に優れた島之丞が描く駒ヶ岳は必見です。定住に興味もなく、間宮林蔵を後継者として育てた人物。「知」を楽しむ夜は熱く過ぎていきました。

24日　ジュニア探検クラブ

体験発掘を楽しみにしていた子どもたち、本当の発掘現場での体験は叶いませんでしたが、函館市の史跡垣ノ島遺跡に設けられた発掘体験に参加させていただきました。あらかじめ砂地に遺跡から出土した土器や石器を埋めてあり、それを掘り出すのですが、やはり見つかると嬉しいようで、でたよ！と歓声があがっていました。その後は、森町の鷲ノ木ストーンサークルを見学。この日のジュニア探検クラブは縄文一色となりました。

ロビー展示は、「石と砂と土」

いつもとはちょっと異なるレイアウトで展示しています。土や砂は道南、道央圏も含めて採集をしました。地層などを見てわかるように、土の色は微妙に異なります。採集後ヒーターでサラサラになるまで乾燥させ、小瓶に詰めました。砂はルーペを使い、粒子の違いを観察してみて下さい。同じようで違う砂が見えるはず。鉱物は、この春に寄贈された色や形が美しいものを展示しています。ご興味のある方は是非ご覧ください。

編集後記　～tawagoto～

手と手を介しての本との出会い。先日、館の学習室に置いてある本からの話題で、学生運動に深く関わった人物の評伝をお借りして読んだ。５００ページ以上の厚い本もページを繰るのが楽しみだった。電子書籍やあらすじを紹介するサイトなど、今や容易に自分の読みたいものを手に入れられる時代。それを否定はしないが、誰かの手を介して、読書の幅を広げる機会は貴重だ。そんな出会いを来館者につなげたい。

11月の予定

1	火	
2	水	
3	木	文化の日
4	金	
5	土	
6	日	
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	
13	日	
14	月	
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	ジュニア探検クラブ
20	日	ピチャリ第179号発行
21	月	
22	火	
23	水	勤労感謝の日
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	
29	火	
30	水	

※11月の休館日はありません

カツラの木

落葉樹、カツラの黄葉は美しい。繊細な葉は風に揺れ、陽光を受けて輝く。碁盤や寿司屋のカウンターにも材が使われているそうだ。

Pichari ～ピチャリ～
第178号
令和4年10月20日発行
七飯町歴史館
〒041-1193　亀田郡七飯町本町６丁目１－３
電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182
E-mail：rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp